ACROSS スマート社会技術融合研究機構
Advanced Collaborative Research Organization for Smart Society

電動車両研究所
研究院客員准教授　井原雄人　ihara@aoni.waseda.jp

小中一貫校におけるモビリティ・マネジメント教育
～宮城県女川町立 女川小・中学校での実践～

背景と目的

- 震災以前から人口減少により統廃合が進み、2013年には小・中学校がそれぞれ1校に統合され、2020年には**小中一貫校として統合型の新校舎での授業**が開始された。
- 町内全域から児童・生徒が通学するために、地域ごとに3台の**スクールバスの運行や家族による送迎**が行われている。

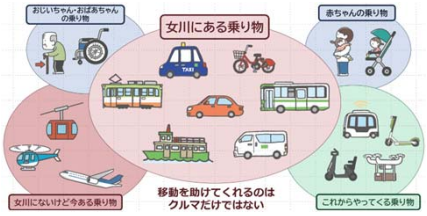
- 子供向けのモビリティ・マネジメント教育の代表例として、バスの乗り方教室などにより、**子供たちがモビリティを体験する機会が自治体・事業者の連携により提供**されている。
- 自治体・事業者には継続的な取り組みであっても、**子供たちには1回の経験**であり、意識の定着までに至っていない。

世代ごとにモビリティに触れる機会を提供し、意識の定着を促すことを目的とする

実施内容

小学校

- 社会科における「産業」や「工場見学」の一部として、公共交通が取り上げられていた。
- 公共交通を知るだけでなく、**自動車を含む移動全般を助けてくれるものを学ぶ**。
  - すでに地域の中にある移動手段
  - 身近な高齢者や子供の移動を助けるもの
  - 未来の移動を助ける新しい移動手段
- 学びを踏まえて、**理想の移動を助けてくれるものを考える**。



移動を助けてくれるものを知る

中学校

- 社会科・地理や公民における「社会事象」の中で、少子高齢化や過疎化への対応の一部として、公共交通が取り上げられていた。
- 移動手段を知るだけでなく、**移動に関わるコストを学ぶ**。
  - 空間的（距離）アクセシビリティ
  - 時間的アクセシビリティ
  - 金銭的アクセシビリティ
- 夏休みを利用して、同じ目的地に**公共交通機関と家族の送迎で移動した場合の、距離・時間・コストを比較**する。

移動に関わるコストを知る

高校

※女川町では2014年に女川高校が閉校したため南三陸高校にて実施

- 社会科・地理総合における「国内や国家間の結び付き」の一部として、公共交通が取り上げられていた。
- 直接的なコストを知るだけでなく、**移動に関わる複合的な価値を学ぶ**。
  - 乗合による環境価値（CO2の削減効果）
  - 徒歩による健康価値（医療費の削減効果）　など
- 移動に関わるコストに加えて、**公共交通を利用することによる付加価値を加えた比較**をする。

		見かけのコストの差	車に隠されたコスト			移動できること以外の価値		
	時間	運賃	ガソリン	維持費	人件費	健康	環境	合計
車	56分	0円	311円	704円	824円	0円	31円	1786円
電車	130分	840円	0円	0円	0円	-409円	6円	430円
差分	74分						合計	1356円

車での移動は７４分の時間を１３５６円で買っている

- 探求学習の題材として取り上げ、**地域内の移動課題の抽出し、グループワークによる改善の検討**。
- 社会福祉協議会や互助輸送を担う団体へのヒアリングなどの**フィールドワークを通して、改善策の実現可能性を向上**。
- 1, 2年生（約100名）を対象に**検討結果を発表し、次年度への展開**。

移動に関わる価値を知る

小・中・高の12年間を長く一緒に取り組んでいただける地域を募集しています

本事業はトヨタモビリティ基金による地域に合った移動の仕組みづくりプロジェクトの助成を受けた実施したものです